

日本国特許庁
公開特許公報

特許出願公開
昭53-34919

Int. Cl.⁸ 識別記号 52日本分類 序内整理番号 43公開 昭和53年(1978)3月31日
A 01 N 9:08 30 F 24 6977-19 発明の数 1
30 F 922 7167-19 審査請求 有

(全 2 頁)

ときぶり駆除剤

1 番26号

出 願 昭51-110258
出 願 昭51(1976)9月14日
発 明 者 有田光昭
大阪市阿倍野区阿倍野筋2丁目

出 願 人 アホロ物産株式会社
大阪市阿倍野区阿倍野筋2丁目
1 番26号
代 理 人 弁理士 中島信一 外1名

明 細 書

1. 発明の名称

ときぶり駆除剤

2. 特許請求の範囲

厚荷油を主成分として成るときぶり駆除剤。

3. 発明の詳細な説明

この発明はときぶり駆除剤に関する。

従来のときぶり退治は、もつばらときぶりを誘引して捕えることに關心が向けられていた。

この発明は、厚荷の匂いにときぶりが敏感に反応し、この匂いを嗅いだだけでときぶりが直ちに過敏してしまふという点に着目して、厚荷油を主成分とするときぶり駆除剤を提供したものである。

図面は本発明を実施したときぶり駆除装置を示すもので、以下これについて詳述する。(A)は

ハウジング本体、(A')はその蓋、(A'')は該蓋(A')の一部に形成した通気のための孔状部、(B)は同上ハウジング本体(A)内に収容した上面開放の容器、(B')はこの容器(B)内に貯留させるときぶり駆除剤で、この駆除剤(B')は厚荷油(B'')と、厚荷油よりも比重の小さい油(B'') (実施例の場合にはラタオイル)の混合体から成り、放置しておくことによつて容器(B)内において両油は分離して、比重の小さいラタオイル(B'')が上面に厚き、厚荷油(B'')の表面を被覆し、外気との直接接触による厚荷油(B'')の酸化を阻止している。(C)はこの容器(B)内に空気を送つて気泡を発生させ、厚荷油(B'')の酸化を促すための送風装置で、ハウジング本体(A)内に装設したモータ付きポンプ(C)、このポンプ(C)に基部を連絡した送风管(C)、この送风管(C)の先端に取付けて容器(B)内に沈めたる気泡発生ブ

上記のように構成したこのときより脱除装置は、適宜の順序にこれを設置して容器ララダ(C)を電源に接続する。そしてポンプ(C)を作動させることによつて空気(C)を経て容器内部に送られる空気が逆気管(C)の先端の気泡発生ブロック(C)を通過する際に細かい気泡となつて揮発油(11a)内に放出する。この気泡により揮発油(11a)の酸化が促がされ、気泡とともに揮発成分がララダオイル(11b)の層を通過し上面開放の容器(9)外へ、さらに上面開放部(12a)を経てハウジング本体(4)外へ、ガス状に放出する。この揮発の匂いを嗅いだときよりは直ちに退散してしまふ。従つて、これときよりが算をあさりに付てくるような場所、

A…ハウジング本体、A'…蓋、A''…調整部、B…容器、C…差圧検出部、D…気流発生機構、E…送気管、F…ヒータ付差圧センサ、G…送風ファン。

代理人 中 島 信 一
(外ノ名)

三才圖會

例えば厨房等に設置しておくことによつて、ごみぶりの増進を断つてその問題を解消すること
ができ、ごみぶりの感除を極めて効果的に行う
ことができる。

なお、重質油 (III) に混合する酸化のための油は、
重質油よりも比重の小さいものであればラウダ
オイルに限らず任意である。

本發明ごきふり濯除劑は、上記のごき
ぶりの油り・炭素油を主成分としたので、これを
家庭に放流しておくだけでごきぶりを濯除する
ことができ、携えて始末する従来のものに比べ
て極めて簡便であり、有用である。

因面は本発明を実施したときより溜除設備の一部切欠立面図である。

/ 〇〇 冠 除 剤、 / 〇〇 導 荷 油、 / 〇〇 サ ラ タ オ イ ル、